

代々木高等学校 学校経営の目標についての自己評価

2021（令和3）年4月～2022年3月

<p>1 学校教育目標（目指す学校像）</p> <p>○生活背景や学習歴及び進路希望等が多様な生徒が安心して安全に学ぶことができる学校</p> <p>○基礎基本の知識・技能や主体的に課題解決に取り組もうとする意欲等、これからの社会で生き抜いていくことができる学力を身に付けることができる学校</p> <p>○地域の良さを教育に生かすとともに持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成する学校</p>	
<p>2 現状と課題</p>	
<p>(1) 生徒について</p>	<p>○基礎基本を自分のペースで確実に定着したいと考えている生徒、大集団の中で学習することが困難な生徒、毎日通学することは困難であるが、限られた日数であれば登校でき、提出物等について計画的に学習に取り組める生徒、さらに高校3年間を目標達成のために有効に活用したいと考えている生徒が増加しています。</p> <p>○進路について真剣に悩み相談を求めている生徒が増えています。</p> <p>○宿泊集中スクーリングでは様々なふれあいや出会い、気づきあいがあり、成長を実感して帰途につく生徒の声が多く聞かれます。</p> <p>○2021年度末在籍生徒数は850名（昨年742名）で、出身都道府県は全国32都道府県となっています。</p>
<p>(2) 教職員と組織について</p>	<p>○県内の生徒を対象として行われる年24回の通常スクーリング、年間13回実施される宿泊集中スクーリング（その他「東京SC、東海SC、大阪SC」でも実施）、レポートの添削、その間を縫って行われる個別スクーリングや補講等、教育計画は過密となっていますが、生徒の多様なニーズに的確に対応するとともに、より一層充実した学習指導・生徒指導及び進路指導を実施するために指導の工夫と改善が必要です。</p> <p>○教員増となり組織の一層の充実が図られましたが、初任の教員については言うまでもなく、経験豊かな教職員についても、各種の教育的な課題についての見識を深めるとともに課題解決に向けての実践力を身につけるため、各種の研修の実施に努める必要があります。</p> <p>○面接指導及び添削指導等をより一層適切に行うために非常勤講師の業務内容を文書等で明確に示す必要があります。</p> <p>○多様な生徒の実態やニーズを的確に踏まえつつ教育目標の実現やさらなる生徒増を目指して、組織力の強化が必要です。</p>
<p>(3) 学校の在り方・教育の特色、地域との連携について</p>	<p>○学校法人立学校の組織体制を確実にするために、これまで以上により一層適切な組織編成を進める必要があります。</p> <p>○学費の変更や法人化に伴う変更事項・確認事項について、主旨や具体的な内容等を保護者や関係機関等に丁寧に説明し周知する必要があります。</p> <p>○志摩スクーリングでの真珠の学習やシーカヤック体験等本校の特色ある教育内容や教育方法についてさらに充実を図り、生徒が行きたい学校、保護者が行かせたい学校、地域から信頼され必要とされる学校づくりを一層推進する必要があります。</p> <p>○学習等支援施設との連携協力関係や業務内容等については、精査を進めていますが、学校法人化を進めるにあたり、教育活動の年間計画や学習等支援施設との打ち</p>

合わせ（訪問を含む）の充実を図り、さらに適切なものとなるような措置が必要です。

3 中長期的な重点目標

（前述の課題を踏まえて）

○特色ある取り組みについては一層の充実を図るとともに、本校の魅力の一つである個に応じた丁寧な指導の充実を図る等、学校の魅力化や教育力の強化を進め、教育の実態を的確に発信し、ニーズと提供できるサービスの整合をめざして、学校のブランド力の強化を目指します。

○効果的な生徒募集策による入学生の安定確保及びより一層充実した教育活動を実施するためのバランスのとれた予算編成と執行等、学校経営の安定化を目指した具体策の検討と実施を図ります。

○広域通信制のメリットを生かした教育の充実と地域社会への貢献を目指して、行政の協力と理解を得ながら学校法人立学校の組織体制づくりを計画的かつ確実に進めます。

○教職員研修については、初任者を主な対象とし、特に教育の現状と課題、これから求められる指導・支援のあり方等を中心に実施します。また、研修を通じて、効率的でかつ生徒の指導の一層の充実に結びつくような、効率的で効果的な指導体制や指導方法等の研究に努めます。

4 本年度の計画（2021年4月～成果と課題は年度末に記載）

項目	取組内容・指標	結果と自己評価	成果と課題
(1) 生徒について	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の学力のより一層確実な定着・伸長を目指して、計画的なレポート提出や積極的な面接指導への参加等の指導を進めます。また、これからの社会を生き抜くために必要となる力の育成を目指して、本校ならではの特色ある教育内容や教育方法の開発と充実に努めます。 ・面接指導や添削指導等の学習活動を通じて、これからの社会を主体的に生き抜くために必要な力の一つとされるコミュニケーション力の育成に努めます。また、生徒の自己肯定感や役立ち感等を引き出す学習活動について研究し、生徒が「探求」しようとする面接指導・添削指導等をデザ 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校までに不登校や引きこもり等を経験し、学校生活に自信を持ってない生徒が非常に多い中で、一昨年度に続き、約7割の生徒については、計画に沿った確実なレポートの提出やスクーリングの参加ができ、また、スクーリング時には授業への積極的な参加や自発的な学習も伺え、意欲的に学ぼうとする生徒が多いことを実感しています。（感想文参照） ・通信制教育では面接指導の時間が限られていることから、スクーリングでは教科書の内容の網羅的な指導ではなく、教員が工夫して指導内容の重点化を図り、学力の確実な定着・向上や学習意欲の喚起に努めています。レポートでも、学習した 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート提出やスクーリングの参加について計画通り実施できなかった生徒がおり、日頃からの指導の充実をさらに図る必要があります。この点を踏まえ、次年度は、志摩本校生については、夏草校舎での学年別のホームルーム活動を充実させます。 ・宿泊スクーリング時に集団に入りにくい生徒がおり、個別指導で対応していますが、そうした生徒の社会性や協調性等を育むための指導の一層の工夫が必要となっています。 ・教科の特性もあり、科目ごとにレポート問題量の差があり、これに比例して生徒がレポート学習に取り組む時

<p>インします。</p> <p>・生徒の進路意識を醸成するとともに希望進路の実現を図るために、進路希望に係る一斉調査を年2回(5月と2月)実施します。</p>	<p>内容をどのように活かすか等を問う出題とする等の工夫をしています。</p> <p>・特別活動での野外調査活動のまとめ学習では、生徒自身が現地で実際に調べた内容を写真と文字でまとめて発表する学習ができました。また、本校独自の取組の一つである学習のふりかえりでは、ユニークで個性的な課題作成例がみられ、主体的に課題を解決しようとする力の育成にかかる成果がみられました。</p> <p>・志摩本校生については進路調査を登校時にヒアリングにより実施しました。</p> <p>・卒業生のインターネットアンケートによる追跡調査を実施(別紙) (卒業2年後、7年後生徒)</p> <p>・指定校推薦入試を利用して大学へ進学する生徒が増加する傾向にあります。(大学68名、短大5名、専門学校6名:述べ数)</p> <p>・卒業生徒数280名(予定含む)うち県内卒業生徒数28名。</p> <p>・志摩本校生で就職を希望する生徒については、求人票の確認や模擬面接の実施等を通じて進路指導の充実を図り、進路の実現に結びつけました。</p>	<p>間に差が見られます。レポート問題の在り方に工夫が必要です。</p> <p>・より一層の進路意識の醸成と、進路希望調査方法の工夫と進路希望調査の確実な実施が課題です。</p> <p>・個別相談の充実、進路意識の早期からの醸成、計画的な指導の実施等、一層充実した進路指導が必要です。</p> <p>・指定校推薦入試をやめてA0入試を実施する大学が増えており、進路指導を充実する観点から、入試の在り方についての情報収集や研究が必要です。</p> <p>・就職については希望者が少ないものの、丁寧な指導を実施することで、確実に実績を積み上げることができました。</p>	
--	---	---	--

<p>(2) 教職員と組織について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の現状と課題、これから求められる教育の方向性、危機管理の3つをテーマにした教職員の研修会を年3回実施し、各人の力量の向上、組織力の向上を図ります。 ・添削指導の報告課題（レポート）の学習を通じてより一層確実に生徒が学力を身につけることができるよう、また大量のレポートをより一層効率よく確実に採点し返却できるようにするため、インターネットを活用した新たな新教務システムの導入について研究を進めます。 ・学校組織のあり方について、縦割りの業務推進ではなく、教職員が日常的に課題や成果等について情報交換するとともに、各人・各分掌の進捗状況を確認しながら業務が遂行できるよう声かけ、確認、OJT等の充実を図ります。 ・法人化推進に向けて、法人立学校の業務とその他の業務の明確な区別を図り、適正な業務分担を進めます。 	<p>(希望5名) (内定：男3名、女1名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の意義、アクティブラーニング、コンプライアンスをテーマにした教員研修会を毎月、職員会議後の時間を利用して1時間程度実施。 令和4年度から実施される新教育課程のレポートなどの作成を教務主導となり作成した。 教育課程や危機管理等について日頃疑問に思っていることを確認する好機となりました。 ・新教務システムについては、全科目のレポートの形式を変更するとともに、生徒の名前や科目等をバーコードで入力処理できるようにしました。ただし、採点処理については、新しいシステム構築する準備を進めている。2021年度途中から暫定的に運用し、2022年度10月から本格稼働を目指しています。 ・教員が増加したため、特に個別指導で、学習指導や進路指導の充実が図られました。 ・生徒の指導の在り方、業務の効率的な進め方等について、非常勤講師を 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から教職員が互いに指導上の課題や悩みを積極的に相談したり、情報交換したりする等、見通しの良い職場の雰囲気が醸成されており、少人数ですが教職員の勤労意欲には高いものがあります。但し、教職員数に比して業務が多岐にわたり業務量も年々増加しているため、教職員数の増が望まれます。 ・広域通信制高校としてより一層充実した教育活動を実施するために、PDCAサイクルを確立し、同僚性を発揮できる組織作りを目指す必要があります。 ・令和4年度より教育課程が変更となり、それに伴うレポートの問題形式を変更するとともに一部出題内容についても見直しを行った結果、レポートの精査を行った。科目の特性もあり、問題量についても調整を行った。 ・生徒定員の増加、面接会場の増加の申請を行っている。 ・どのような指導によ
-----------------------	---	--	---

		<p>含め教職員間での打ち合わせを綿密に行い、指導等の留意点についての確認を継続的に実施しました。</p>	<p>り生徒がどのように成長したか、そのためにはどのような準備や対策が必要か等、現場の声を踏まえた学校経営の推進に努め、一層の指導の充実を図る必要があります。</p> <p>・生徒や保護者、地域からの多様で複雑なニーズに、より一層的確に対応するために、慣行としてきた分掌・担当業務の在り方及び人員配置等を見直し、教職員がそれぞれ適切な業務量と分担で職務を遂行できるよう工夫する必要があります。</p>
<p>(3) 学校の在り方・地域との連携について</p>	<p>・生徒の指導や支援及び通信教育にかかる業務や協力・連携関係については、学校ができることと学習等支援施設ができること等を明確にし、文書等による取り決めに加え、各学習等支援施設を訪問し、情報交換と確認をしながら確実に業務提携・分担を進める必要があります。</p> <p>・三重県私学課の指導のもと、学則変更などの申請を行う。旧成基小学校（代々木高等学</p>	<p>・学習等支援施設に対して、通信制教育のより一層の適正化を図る観点から、文部科学省のガイドラインを踏まえて本校の改善策等をまとめた「令和3（2021）年度以降の学校運営について」を昨年度送付し、連携の強化と適正化に努めました。</p> <p>・三重県私学課の指導の下、関連法規の変更に伴う申請および学則変更の申請を実施。</p> <p>・2021年度の転編入生数は <u>130人（15%）</u>、退学者数は <u>2人（0.5%）</u> となっています。アットホームな雰囲気、個別の指導</p>	<p>・学習等支援施設の中には、レポートの提出が予定より遅れるなどの課題があるところもあり、連携の在り方を工夫し、学習等支援施設での支援の在り方について充実と改善を図る必要があります。</p> <p>・一層の入学希望者増を目指して、学校の現状や特色をよりわかりやすく情報発信するとともにオープンスクールの開催及び高等学校の訪問等について検討が必要です。</p> <p>・従来からの飛躍を目指して、さらに在校生</p>

	<p>校新校舎) については、生徒の健康と安全を最優先にしながら、地域の声も踏まえて、利活用を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信制教育の一層の充実に努めるとともに本校教育の魅力をより一層効果的に発信し、本校への入学を希望する生徒の安定確保に努める必要があります。 ・年々、不登校経験者や全日制の仕組みになじめない生徒が多く在籍するようになっていきます。 ・コロナウイルス感染症が年度当初より急速に全国に拡大する状況となり、状況を見極めつつ、生徒の健康安全を最優先に感染症防止対策を講じた。 	<p>の充実等生徒一人ひとりの教育ニーズに対応した指導方法、自分のペースでいつでもどこでも本格的に学べる仕組み等が本校の強みであり、この点を活かして入学希望者の増加に結びつけ、さらに確実な経営基盤の確立を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志摩本校での学習を中心にした新パンフレットを作成し、関係する学校やサテライト教室等に配布するとともに、教育相談で活用を図りました。 ・本校の生徒及び教職員から感染症発症者は出ていませんが、コロナウイルス感染症拡大防止及び、大地震等の災害対応の観点から、改めて学校での危機管理の在り方について検討する必要があります。 	<p>や保護者等の視点に立った情報発信の在り方について工夫が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染症が特に宿泊集中スクーリングにどのように影響するか、行政等関係機関との連携を図りつつ、迅速的確に判断し、対応する必要があります。 ・また、感染症対策だけでなく、防災等の危機管理的側面からも情報発信の在り方や具体的な対応策等についてさらに研究と検討が必要です。
--	--	--	--